

調査問題の内容

問題は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

学習指導要領に示されている各領域に基づき、ストロー笛をつくり、音について科学的に探究する問題、ドライアイスの中で燃焼するかどうかを科学的に探究する問題、生物のスケッチの有用性について考える問題、身近な地域の大地の変化について科学的に探究するなどが出題されている。

全体の結果

	海老名市	神奈川県（公立）	全国（公立）	全国との比較
平均正答率 ※共通問題6問のみ	51.7%	50.0%	48.3%	3.4
平均正答数 ※共通問題6問のみ	3.1問 / 6問	3.0問 / 6問	2.9問 / 6問	0.2
IRTスコア ※公開問題全18問対象	518	510	503	15

理科調査の特徴と留意点

令和7年度の中学校理科調査は、タブレット端末を使い CBT 形式で実施した。

また、実施日が学校によって異なり、実施日ごとに一部異なる問題（領域も異なる）が出題された。

全員がすべて同じ問題を解いたのではないため、他教科のような正答数、正答率での集計ではなく、「IRT スコア」という問題の特性（難易度、測定精度）を加味した計算式により算出された値で集計されている。

IRT スコアをもとに、個人の結果は5段階の「IRT バンド」で表示され（標準スコアは3、最大スコアは5）、学校・市町村ごとの結果は全国の結果 503 を基準にしたスコアで表示された。

※次ページの分析・考察は、共通問題（6問）の結果をもとにしています。

IRT 分布グラフ

（横軸：IRT バンド、縦軸：割合）



分類・区分別集計結果（共通問題のみ）

分類	区分	対象問題数	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			海老名市	全国(公立)	全国との比較	海老名市	全国(公立)	全国との比較
学習指導要領の領域等	「エネルギー」を柱とする領域	1問	56.7	51.9	4.8	0.1	0.2	-0.1
	「粒子」を柱とする領域	3問	61.5	56.8	4.7	5.2	8.8	-3.6
	「生命」を柱とする領域	1問	32.1	29.7	2.4	0.0	0.2	-0.2
	「地球」を柱とする領域	1問	38.6	36.2	2.4	0.2	0.6	-0.4
問題形式	選択式	3問	47.3	39.3	8.0	0.1	0.3	-0.2
	短答式	1問	53.0	44.9	8.1	4.8	8.5	-3.7
	記述式	2問	65.7	62.8	2.9	5.4	9.0	-3.6

海老名市の結果についての分析

- 平均正答率は、全国平均を上回っており、差は3.4ポイントである。
- すべての問題で、平均正答率が全国平均を上回っている。
- 平均正答率が80%以上の問題は、6問中1問(全国は0問)である。
- 特に短答式の設問において、全国と比べて平均正答率が高い傾向である。
- 全設問(6問)で、無解答率が全国を下回った。

成果

- 観察や実験等の科学的な探究を通じて、自己の考えが変容したことを適切に振り返ることができている。
- 元素を記号で表すことに関する知識が身に付いている。

課題

- 身の回りの事象から生じた疑問や、見い出した問題を解決するために課題設定する力を高める必要がある。
- 「すべての生物は呼吸を行う」という生命を維持する働きについての概念的な理解に課題がある。

指導の改善に向けて

- ◆疑問や問題を解決するための課題を実生活と関連付けながら設定できるように
 - 課題に対して生徒が見通しをもって探究できるように、身の回りの疑問や問題を見出しやすい自然の事物・現象を提示する。
 - 身の回りの事象から生じた疑問や問題を解決するために、課題の把握の場面で、自らが課題を設定する学習活動を行う。
-
- ◆生物の特徴を捉え、概念的な理解を深められるように
 - 「呼吸を行う」「光合成を行う」などの生物の共通点や相違点を挙げ、それらの特徴から様々な生物について考察する学習を行う。
 - 直接観察することが難しい生物については、ICTを活用して生物の動画等を視聴する等、指導の工夫をする。